

2013.6.1

“6月” 雨と自然をテーマにした名曲を集めて

プログラム

6月になりました。6月と言えば“梅雨”、雨の季節です。そこで今日は題名に雨の付いた曲、自然の中での雨を題材にした名曲をお聴きいただくことにしました。

組曲「グランド・キャニオン」はアメリカの作曲家、グローフェの代表作で、少年時代に見たこの一大景観を音楽で描写した作品で、名指揮者ドラティがグローフェを“アメリカのレスピーギ”と評したのも納得できる、見事な管弦楽の醍醐味を味わうことができます。ブラームスの「雨の歌」は第3楽章に歌曲「雨の歌」の主題を用いている事からこの題名が付いていますが、穏やかな曲想とメランコリックな深い味わいを持つ名曲です。“シェルブールの雨傘”は、フランス、ノルマンディー地方の街、シェルブールを舞台にした1964年ジャック・ドゥミ監督のミュージカル映画で、すべてのセリフをオペラ風に歌わせるという画期的な作品でした。有名なルグランのテーマ音楽を今日は中丸三千繪のソプラノでお聴きください。ショパンの「雨だれ」、ドビュッシーの「雨の庭」は、共に雨を題材にしたピアノの名曲。ベートーヴェンの「田園」は、自身が「絵画的描写ではなく感情の表現」としてこの曲を書いたと言われていますが、生き生きと奏でられる音楽は見事に自然を描写しています。第4楽章の“雷雨、嵐”と「グランド・キャニオン」の“豪雨”を聴きくらべるのも面白いと思います。

フーティ・グローフェ (1892~1972):

組曲“グランド・キャニオン(大峡谷)”～

1.日の出 3.山道を行く 4.日没 5.豪雨 (2.赤い砂漠は割愛、4.日没は一部)

アントル・ドラティ指揮デトロイト交響楽団 (1981年録音 LONDON盤)

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):

ヴァイオリン・ソナタ第1番ト長調op.78“雨の歌”(第2楽章のみ一部、他全曲)

オーギュスタン・デュメイ (ヴァイオリン)

マリア・ジヨアン・ピリス (ピアノ)

(1992.11.8 サントリーホールでのLive)

*** 休憩 ***

シェルブールの雨傘

ミシェル・ルグラン (1932~)作曲:ノジャック・ドゥミ (1931~1990)作詞

中丸三千繪 (ソプラノ)

スチュアート・ハッチンソン指揮フィルハーモニア管弦楽団

(1997年録音 EMI盤)

フレデリック・ショパン (1810~1849):

前奏曲op.28～第15番変ニ長調“雨だれ”

モーラ・リンパニー (ピアノ)

(1992.4.3 サントリーホールでのLive)

クロード・ドビュッシー (1862~1918):

版画～第3曲“雨の庭”

クラウディオ・アラウ (ピアノ)

(1981.10.12 昭和女子大学人見記念講堂でのLive)

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):

交響曲第6番ハ長調op.68“田園”～第1楽章、第2～第4楽章抜粋、第5楽章

田舎に着いたときの愉快的感情の目覚め～小川のほとりの情景～田舎の人々の楽しい集い～雷雨、嵐～牧歌 嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち

クルト・サンデルリンク指揮バイエルン放送交響楽団

(1990.5.25 ミュンヘン、ガスタイクホールでのLive)